

2019年1月31日

味の素(株)、味の素フーズ・ノースアメリカ社および プロマシドール・ホールディングス社投資に係る減損損失等を計上

味の素株式会社（社長：西井孝明 本社：東京都中央区）は、2019年3月期第3四半期（2018年4月1日～2018年12月31日）の連結決算において、減損損失および持分法で会計処理されている投資に係る減損損失を計上しましたのでお知らせします。なお、本件に合わせて、本日、「2019年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しました。

記

1. 減損損失の内容（連結決算）

（単位：百万円）

各段階利益影響額	事業利益	税引前 四半期利益	親会社の所有者に 帰属する 四半期利益
(1) 味の素フーズ・ノースアメリカ社（以下「AFNA社」）に係るのれんの減損損失	-	13,525	10,047
(2) 持分法で会計処理されているプロマシドール・ホールディングス社（以下、PH社）に対する投資に係る減損損失（33.33%出資相当）	-	13,604	13,604
(3) PH社商標権に係る減損損失（33.33%出資相当）	3,222	3,222	3,222
合計	3,222	30,352	26,874

2. 損失計上の背景と事業の状況

(1) 北米冷凍食品事業

アジア製品を中心に引き続き、売上高の増加を果たしており、旧味の素ウィンザー社（現AFNA社）取得時の北米冷凍食品市場の中でも成長分野であった日本食・アジア食市場において、当社の得意とするギョーザ・麺・米飯を中心に、AFNA社の販売網を利用して、全米の小売チャネルへの販売を加速しています。しかしながら、生産効率化の過程において、新生産体制構築に伴うコストが増加、また、2017年12月から導入された米国運送新規制を起因とする物流費上昇に伴い、採算が悪化しています。

今年度第4四半期に生産を安定化させ、2019年度から更なる改善を図る計画としていますが、足元の収益性が低いことから、減損損失を計上しました。

(2) PH社事業

PH社が事業を展開する主要国における石油価格下落を起因とした財政収支悪化とそれに伴う経済成長率の大幅な鈍化により、事業環境が激変しています。そのような外部環境に加えて主要国において競争も激化しており、PH社傘下法人の収益性も低下していることもあり、減損損失を計上しました。

3. 今後の見通し

(1) 北米冷凍食品事業

米国における環境変化に対応した具体的な構造強化計画は、現在、最高経営責任者である西井をリーダーとした経営基盤検討会で協議しています。構造改革と同時に既に実行されている工場生産性改善と物流改善を確実にするため、a) 生産改善人材の追加投入、b) 調達・購買コストダウン、c) 物流外部専門家による診断を踏まえた実行計画を立案し、多岐に亘る改善項目の可視化を図り、改善目標の進捗を管理します。

(2) PH社事業

成長率の鈍化したアフリカ市場ですが、成長率が高く、また当社に知見のあるドライセイボリー事業を中心に、PH社経営陣と成長戦略を検討します。

以上